

2023年度事業報告



①福祉相談事業

困りごと相談(自主事業)

活動の想い

安心して暮らせる地域を作りたい！

直接の成果

悩みや困りごとを抱えた人が相談をする。

短期成果

必要な時に相談できる関係ができる。

長期成果

問題解決へ向け、自ら行動が起こせるようになる。

【担当責任者】 法人事務局として実施

【活動概要】

暮らしにかかわる相談を法人全体として相談者の気持ちに寄り添う傾聴を中心に実施する。必要により関係機関への紹介を行います。

【活動実績・得られた成果】

ケアマネ・障害者相談支援を中心に法人全体で行う困りごと相談業務として行いました。町内に相談支援体制が整ってきていることから必要に応じて専門相談窓口への対応も行いました。

困ったときに気軽に相談できる場や機会、日頃からの関係づくり。

②高齢者・障害者に対する地域生活支援サービス事業

タイムケア事業(自主事業)

直接の成果

スタッフが生活の援助を始める。

短期成果

生活の連続性が保たれたり、やりたいことができ始め

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 121回(158時間/年)

【活動概要】

介護保険対象者および障害福祉サービス対象者に対し、制度のルール等の理由で対応できない部分に柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

介護保険対象者及び障害福祉サービス対象者に対し、制度のルールなどで対応できない部分に柔軟に対応していました。高齢者では主に介護保険では対象にならない大掃除や草取り、水やり、移動支援を中心に行いました。障害者ではホームヘルプなどの隙間を埋めるサービスとして実施しました。

分かち合い事業(自主事業)

直接の成果

住民スタッフが生活のお手伝いを始める。

短期成果

生活の中の困り事が改善し始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【活動概要】

介護以外のちょっとしたお手伝いについて、住民同士の助け合いで柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

法人内の事業効率化として、分かち合い事業でひるじろう(就労継続支援B型)に社用車の洗車、花壇整備、草取りなどの業務の依頼を行い、ひるじろうの利用者さんへの工賃として協力費をお支払いしました。

③相談ケアマネジメント事業

ゆめじろう居宅介護支援事業所

(介護保険居宅介護支援事業)

活動の想い

見慣れた風景や環境の中、その人らしい暮らしができることを応援していきたい

対象

町内在住(近隣町を含む)
高齢者と家族

直接(～1か月)の結果

生活や介護に関する困りごとや、暮らしにくさに対して、サービスの利用や暮らし方について相談できる。

短期(～3か月)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関との関係づくりが始まる。

中期(～1年)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関とつながっている。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活が支援を受けながら継続し、ひとりではないと感じながら生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



●居宅介護支援実績 1464人

【担当責任者】西川百合

【活動概要】

介護を必要とする方が、自宅で適切に介護保険サービス利用ができるように、心身の状況や生活環境、本人・家族の希望に寄り添い、その人らしい生活ができるようにケアプランの作成やサービス調整を行います。暮らしにくさなどの相談の場合には、介護保険制度や他機関の案内や提案を行っています。

【2023年度活動目標】

会員はじめとするゆめじろうとつながる全ての人に、必要な時に適切なサービスが届けられることができるように情報発信の方法を考え、暮らしの中での些細な困りごとについても寄り添い、必要なサービスの提供や、機関への橋渡しをするなど、困った時につながれるようになることで、ひとつでも多くの笑顔に出会い、安心して生活ができるように引き続きの事業継続を目指します。

また、声を掛け合い、相談しやすい環境作りに取り組むことで、人員配置を確保し特定事業所加算の継続算定が可能となり、報酬アップを目指します。

【活動内容・得られた成果】

令和4年10月から常勤一名の入職以降、特定事業所加算Ⅲを算定し、事業収益が上がっています。算定要件の中の週1回の会議の開催により、これまで以上に情報の共有ができるようになりました。相談しやすい職場環境が整ったことにより、ひとりで抱え込みやすい業務の中で、いろいろな視点をもてスキルアップにも繋がりました。



「困った時の、ゆめじろう」つながることで、安心して暮らしを応援します。

ゆめじろう相談支援事業所

R4.1~

(障害者総合支援法)知多南部基幹相談支援センター(基幹)、一般相談支援事業、特定相談支援事業、(児童福祉法)障害児相談支援事業



基幹相談支援センターとして相談だけでなく地域づくりも行います！

活動の想い

障害のある人と家族が安心して暮らせる社会や地域を作りたい！

対象

武豊町・美浜町・南知多町
在住の障害者と家族

活動内容

障害児・者の生活・サービスに関する相談援助。協議会の運営。

直接の結果(～1か月)

相談を行い、必要な情報が得られたり、サービス利用が始まる。

短期の成果(～3か月)

必要に応じ相談ができ、生活が安定しはじめる。

中期期の成果(～1年)

新たな課題が出てきても、相談することで安心できる。

長期(～3年)の成果

住民の障害理解が深まり、サービス以外の資源を活用しながら自分らしい生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

金融機関を対象とした障害者差別解消法研修の様子



【利用人数】

相談実績: 13891件 / 年間(前年度15,244件)

【担当責任者】 出口 晋

【活動概要】

武豊町・美浜町・南知多町に住む障害がある人の生活に関わる相談を3町から委託を受け行っているほか、地域自立支援協議会の事務局を行っています。また、福祉サービス利用のための計画作成も行っていきます。

【2023年度の目標】

基幹相談支援センターとして、南部3町の相談支援事業所への参入の働きかけや相談支援事業所への支援を行う一方で、ゆめじろう相談支援事業所としても相談支援専門員の確保と相談員のスキルアップを引き続き行っていきます。また、セルフプランで対応してきた新規ケースについても可能な限り計画作成するほか、十分にできていなかったモニタリングについてもワーカーを活用し実施をしていきます。

【活動実績・得られた成果】

基幹相談支援センター2年目に入り相談支援事業所連絡会も軌道に乗り新たに南部3町の計画作成を行っている半田市の事業所へも声掛けをし相談技術のスキルアップや情報交換他、声を掛け合える関係づくりとして懇親会なども行うことができました。

昨年度と今年度に新人として加わったスタッフも経験を積み力をつけ相談支援専門員やワーカーとして独り立ちできるようになり、滞りがちであったモニタリングや新規相談への対応、セルフプランで対応してきたケースに対しても計画作成を行うことができました。また、主任相談支援専門員を中心に医療的ケア児や行動障害があり支援環境が整いにくいケースに対するきめ細やかな対応や仕組みづくりについても取り組んだほか、新たに始まった重層的支援体制整備事業の会議へも参加し複数の問題を抱える家族ケースへの対応についても分野を超え協力して取り組みました。

一方、元旦夕方に発生した能登半島地震が発生し、改めて個別避難計画の作成など災害時の備えが進んでいない状況に危機感を持ち最優先課題として取り組んでいかなければならないことを実感しました。

④ホームヘルプ事業

ゆめじろう訪問介護事業所

(介護保険訪問介護事業、介護予防訪問介護事業)



その人らしさに寄り添いながら
丁寧な介護！

活動の想い

住み慣れた町で暮らし続けることを応援したい！

対象

町内在住高齢者

活動内容

介護保険サービスとして高齢者の生活を支えるための訪問支援。

直接(～1ヶ月)の結果

ヘルパーが家庭に入り生活の援助を始める。新たな困りごとや課題が明らかになる。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーの援助を受けながら生活をする。

中期(～1年)の成果

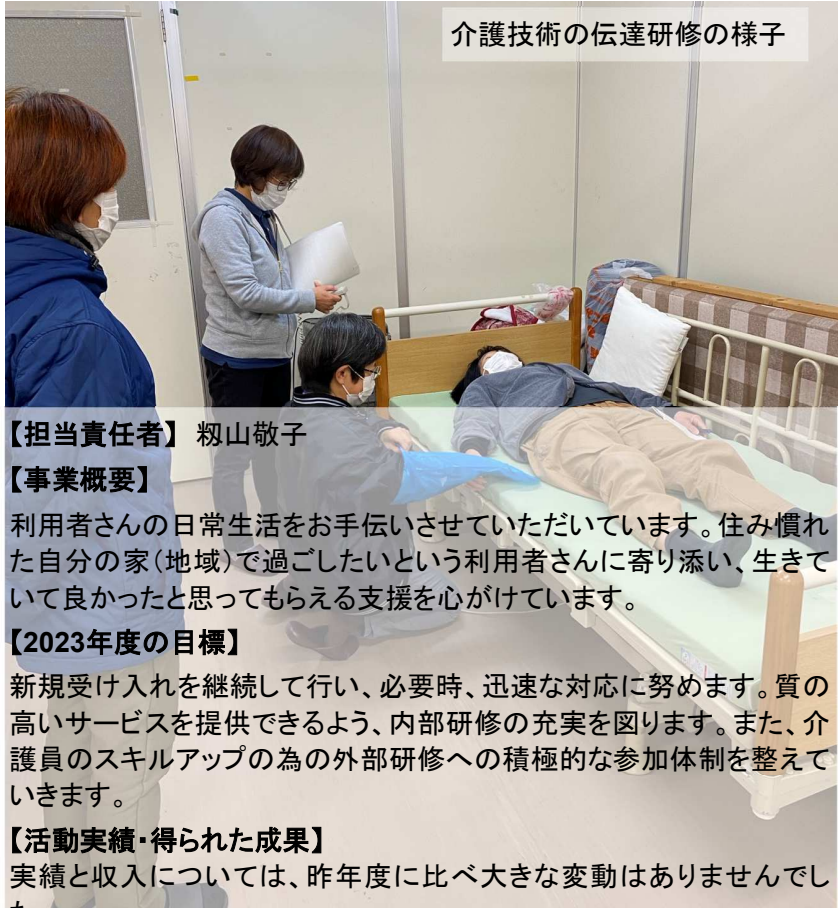
出来ることは自分で行い、出来ないことはヘルパーと一緒に言いながら生活の質が向上する。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活がヘルパーの援助を受けながら継続し、生きがいや目標が見つかる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



介護技術の伝達研修の様子

【担当責任者】 靱山敬子

【事業概要】

利用者さんの日常生活をお手伝いさせていただいています。住み慣れた自分の家(地域)で過ごしたいという利用者さんに寄り添い、生きていて良かったと思ってもらえる支援を心がけています。

【2023年度の目標】

新規受け入れを継続して行い、必要時、迅速な対応に努めます。質の高いサービスを提供できるよう、内部研修の充実を図ります。また、介護員のスキルアップの為の外部研修への積極的な参加体制を整えていきます。

【活動実績・得られた成果】

実績と収入については、昨年度に比べ大きな変動はありませんでした。

他事業所との繋がりを強化する為、ヘルパーの集いに定期的に参加しています。意見交換、情報交換をする事で知り得なかった情報を得る事ができ、有意義な場となっています。

また、介護支援専門員と積極的に関わりを持つ事で、信頼関係を築く事ができた年でもありました。新規の依頼も増えましたが人材不足もあり、受け入れが思うようにできませんでした。新しい人材を確保する事が課題です。

介護員のサービス資質向上の為、外部研修の参加を促す事により、それぞれが受講する事ができました。サービス検討会(月1回)にて、各々が受講した研修内容の発表をする事で必要な知識やスキルの習得ができました。また、介護技術の発表では実際に介護ベッドを利用し伝達してもらい、交代で練習する事もできました。苦手な介護技術を克服する為、昨年度より練習の機会を増やす事ができました。

ゆめじろう居宅介護等事業所

(障害者総合支援法居宅介護等事業)



その人らしい暮らしをマンツーマンで支えます！

活動の想い

障害のある人の社会参加や挑戦を寄り添って応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)障害者

活動内容

自宅へヘルパーが訪問し、障害児・者の地域での生活を支えると同時に生活課題を明確にして課題解決のための支援を行う。

直接の結果

ヘルパーが家庭で生活の支援をしたり、社会参加支援を始める。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーが家庭で、日々の生活支援に加え、課題解決のための支援を受け始める。

中期(～1年)の成果

継続した支援を受け続けていける。ヘルパーの支援を受けながら課題解決力・生活力が付く。

長期(～3年)の成果

自ら課題解決に向かっていく力が付く。また、必要とする支援を発信できるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



外出支援で名古屋港水族館の水槽に見入る利用者さん

【根拠事業】居宅介護等事業、行動援護、移動支援

【担当責任者】山本浩人

【活動概要】

個人のニーズに合わせ、マンツーマン対応で障害のある方の日常生活・余暇活動を支援しています。

【2023年度活動目標】

人材不足で厳しい状況ですが、多くのニーズに答えられる様に工夫をします。

登録ヘルパーに協力を仰ぎながら、人材を獲得します。

【活動内容・得られた成果】

・ヘルパーは基本的にマンツーマン対応ですが、移動支援事業の中にはグループ支援型というものがあります。ヘルパーの人材不足が解消されない現状で、少しでも多くの利用者さんにサービスを届けるため、このグループ支援に取り組み始めました。利用者さんの相性や、ヘルパーのスキルなど、事前の調整や準備が重要となりますが、少しずつ実績が上がってきています。利用者さんの意向も確認しつつ、今後も可能性を見つけていきたいと思っています。

・人材不足は本当に大きな課題です。2023年度の登録ヘルパー数(常勤・非常勤含め)は17名でした。一昨年度に比べ4名減少、そして障害ヘルパー部署の担当スタッフは他部署との兼務だった為、ヘルパーのサービス提供件数が一昨年度から20%ほど減少となりました。人材獲得のために「資格取得支援制度」の案内なども行いましたが、新規登録のヘルパーはありませんでした。今後も情報収集・宣伝などについて検討を重ね、実行していきたいと思っています。

⑤ デイサービス事業

ひるじろう (生活介護)

活動の想い

どんなに重い障害があっても、その人らしい自己実現ができる活動や居場所が必要だ！

対象

町内在住(近隣町を含む)の重度障害者

活動内容

重度障害者に対し、それぞれの能力や意向に応じた日中の活動と居場所の提供を行う。

直接の結果

送迎等の支援を受けながら自分のペースでひるじろうに通い、活動に参加する。家族以外の人とのかわりが始まる

短期(～3か月)の成果

活動に参加するうちに自分の強み弱みが分かってくる。得意な活動にはやりがいもてるようになる。

中期(～1年)の成果

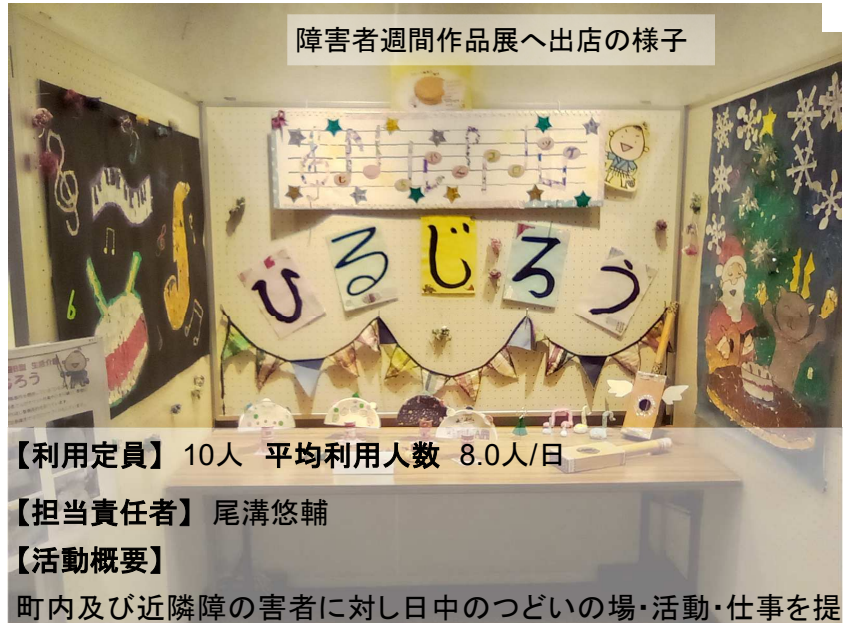
得意な活動に磨きをかけ、やりがいを持って取り組めるだけでなく、息抜きもできるようになる。

長期(～3年)の成果

やりがいをもって行える活動を共に行う仲間ができひるじろうが大切な居場所となる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



【利用定員】 10人 平均利用人数 8.0人/日

【担当責任者】 尾溝悠輔

【活動概要】

町内及び近隣障の害者に対し日中のつどいの場・活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現を支援する。

【2023度活動目標】

利用者の増員について考えていく中で、ひるじろうは以前までの定員の空きがない状態が続いていると認識されていたことが分かりました。これまでこれといった外部への発信をしていなかったことが大きな原因だと思っておりますので、SNSでの発信やチラシ作成などに注力していきます。

・新しい活動の創出

昨年度から継続した目標になりますが、今年度は他事業所の活動見学などを実施してそれぞれの事業所の工夫している点を吸収し、ひるじろうに取り入れていきたいと考えています。

【活動内容・得られた成果】

・広報活動

7月に生活介護ガイダンスへ参加し、PR活動を行いました。多くの家族の事業所に対するニーズを聞き、ひるじろうを知ってもらうためにSNSで活動の様子を発信してきましたが断続的になってしまいました。継続的に発信がある他事業所は反応も多いので継続できるよう工夫していきます。

・新たな活動の創出

他事業所の話を聞く機会はありませんでしたが、実際に見学に行くことはできませんでした。スタッフだけで考えるのではなく、主役である利用者から出てくる「〇〇したい、行きたい」という言葉を大切にしたいと考え、スタッフ間で共有して今年度は実現できるよう動いていきます。



自分らしく エンjoyイ&ワーク ひるじろう！



ひるじろう (就労継続支援B型)

活動の想い

障害のある人の「仕事がしたい」「社会の役に立ちたい」という思いを応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)の仕事をした^い障害者。仕事ができる可能性があるのに十分に力を発揮できていない障害者。

活動内容

障害者に対し、仕事を通じて社会参加・社会貢献をする場の提供を行うと共に、それに対し工賃を支払う。

直接の結果

ひるじろうへ通い、コロッケ作り・販売、整備事業など自分に合った仕事に取り組む。

短期(~3か月)の成果

ひるじろうに慣れ、仕事をしながらの生活リズムができる。

中期(~1年)の成果

お金に関心が持てるようになる。目標工賃23,000円/月の達成

長期(~3年)の成果

工賃だけでなく、仕事そのものにもやりがいや誇りが持てるようになる。目標工賃25,000円/月の達成

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

コロッケ価格改定のお知らせ

ちやんコロッケをご利用いただき、誠にありがとうございます。
少しでもお安くコロッケ等の製造販売を行ってまいりましたが、原材料の度重なる値上げにより、現在の価格では品質を落とすこととなりました。誠に不本意ですが、品質を維持するために、お客様にはご負担、ご迷惑をおかけいたします。ご理解とご理解を賜いますので、変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

新価格

2024年1月1日より

全品110円 → 全品150円

NPO法人

(試作)串カツを作って給食でたべばし



【利用定員】 10人 平均利用人数 4.6人/日

【担当責任者】 楯貫浩美

【活動概要】

町内及び近隣の障害者に対し、日中の活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現の支援を行う。

【2023年度の目標】

滑りにくい厨房用の靴の導入やHACCPの考え方を取り入れた衛生管理計画、記録簿を作成し、安全、衛生面に重点を置いた活動を行っていききたい。

【活動実績・得られた成果】

今年度は11月から1名増員し6名になりました。メインの活動であるコロッケ製造販売においては1月から1個150円への価格改正をおこないました。大きなイベント出店のため今まで経験したことのない1日当たりの最多製造の日もありましたが、なんとか予定数を準備することができました。主力であるチキンカツの製造では、今まではコロッケ製造の日に利用者1名で作っていましたが、より大量の製造の必要性から利用者全員で関わって製造する方法に変わりました。

コロナ禍で武豊町役場での販売から長く離れていた利用者さんが4月から販売に同行するようになりました。酷暑の夏季にはひるじろうスタッフ全員、また他部署のスタッフの協力を得ながら短時間交代にて販売を行いました。

平均工賃は前年度よりアップすることができました。

また月に一度の昼食作りの日には、担当者を決め、食べたいものや作ってみたいものからメニューを決めました、そのための必要な食材を考えたり、作り方を事前に調べて

みんなで共有してから作りました。自分で決めた料理やおやつはともて意欲的に作る様子が見えました。

こじろう

活動の想い

障害のある子どもたちの地域の中で健やかな成長と家族を応援したい！

対象

町内在住の障害児（家族）

活動内容

障害児の放課後と長期休暇の活動と居場所の提供。

直接の結果

子：場所、人に慣れ落ち着いて過ごすことができる。
親：自分の時間が持てることにより余裕ができる。子
の家とは違う側面を知る。

短期（～3か月）の成果

子：こじろうに行くことが楽しみになる。
親：安心して送り出すことができるようになる。

中期（～1年）の成果

子：好き嫌いがはっきりして自分から活動を選択し参加できるようになる。
親：スタッフと信頼関係ができる。

長期（～3年）の成果

集団で過ごし、社会経験を積み上げることにより必要なルールが身に付きよい人間関係が保てるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



床屋さん、回数を重ねて上手にできるようになりました

【利用定員】 5名

【担当責任者】 榊原由起

【活動概要】 移動支援事業を活用し実施

障害のある子どもたちが放課後や長期休暇を安全に楽しく過ごすための場所です。子どもたちが主体的に活動できることを目標にしています。

【2023年度の目標】

ゆめじろう全体の事業継続も考慮し、引き続き移動支援事業を活用しこじろうを利用していただいている方へのサービスを提供していきます。

【活動実績・得られた成果】

23年度は6人のこじろうでスタートしました。開催日は火、木、金の週3回、1回あたり2～3名での活動でした。22年度からヘルパー事業に移行したため、1対1または2対1（グループ支援）でのきめ細やかな活動ができました。「〇〇したい」「△△行きたい」と声が上がった時、可能なことであればすぐ実行できる（できた）。ということです。23年度のこじろうは、電車に乗ったりバスに乗ったり、ボランティア活動をしたり、初めて地域の床屋さんに行ったりと、本当にいろいろな活動に取り組むことができました。

こじろうも、地域貢献、ボランティア活動やっています！

⑥福祉移送ボランティア事業

【根拠事業】 自主事業 【担当責任者】 山本浩人

【事業概要】 緊急的に必要または、やむを得ない場合の車による移送。

【事業実績】

緊急やむを得ない場合において法人判断で無償で実施しました。

⑦次世代育成事業(子育て支援事業)

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 瀧本智恵美

【事業概要】 託児等を会員同士の助け合いで実施する。

【事業実績】

新たに始まった、たけとよ子育てつながるサロンに定期的に参加し情報交換を行いました。

⑧高齢者障害者に対する社会参加促進事業

喫茶「ゆめひろば」

直接の成果

町民がゆめひろばを利用し、食事やお茶を飲みながら話をする。



長期成果

町民会館に、食事をしたりお茶を飲みながら仲間との交流や出会いの場が確保される。



【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 木村智子

【事業概要】

食の安全を意識した手作りの食事、飲み物を提供しています。また、住民の交流の場として快適な場所作りを大切にしています。

【2023年度の目標】

引き続きコロナウイルス感染症の状況を見極めつつ安全な運営に心がけます。

【活動実績・得られた成果】

文化祭でじろちゃんコロッケのチキンカツを使いチキンカツドッグの販売を行いました。イベント時の定番商品になればいいと思います。

モーニングコンサート等の来客数も徐々に増加してきました。

就労継続支援B

P12を参照 ひるじろうの活動の中で紹介。

フリースペース事業

【事業概要】

事業所のいろいろなスペースを利用して、地域の方が立ち寄り、ボランティアとして参加いただいたりする事業を提供しています。「こんな事ができるといいなあ。」や「こんなことで困っている。」「このくらいの手伝いはできるわよ。」などの声を大切にいろいろな活動を少しずつ行っています。

ゆめじろう茶屋 自主事業

活動の想い

地域で孤立することがないように住民同士のつながりを大切にする居場所を作りたい！

対象
町民

活動内容

地域住民が気軽に集える場所と活動の提供をする。

直接の結果

地域住民が日常的に茶屋に集い活動に参加する。

短期の成果

茶屋に集う者同士の交流が生まれ、新たな関係ができる。

長期の成果

茶屋を活用して地域住民の支えあいの活動が展開される。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

○事業実績 延べ107人

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 西川百合

【事業概要】

年齢・性別・国籍問わず気軽に参加しています。

情報交換や物々交換、新しいつながりなど「つどい・つながる」場所です。

【2023年度の目標】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動実績・得られた成果】

月2回、第1、第3月曜日に三郎宅にて、地域の人が自由に集まれるサロンとして「やっとかめ」を再開しました。地域の中の情報交換や、介護保険制度や暮らしの中の悩み事に共感や解決方法を会話の中からピックアップし、生活の役立ち情報を交換し合う場となっています。利用者の固定感もあり、今後の運営方法にも課題を残して

⑨地域福祉啓発・研修事業

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

高齢者福祉および障害者福祉にかかわらず地域福祉に関わる活動やイベント等を開催しています。毎年9月の第1土曜日に行っている夏祭り(平成28年度からは龍宮まつり)、日本福祉大学と協働で実施するサービスラーニング、武豊町との協働事業で始まったきのこプロジェクト、フードバンクちたの他、ゆめじろうくん(着ぐるみ)やコロツケカーによる地域イベントへの参加など多岐に及びます。

たけのこプロジェクト(武豊町提案型協働事業)

活動の想い

美味しい顔と時間を共有することで困ったときにSOSが出せたり助け合える関係と地域力を作りたい。

活動内容

月に1回、地域住民が集まり一緒にカレーを食べる機会を作り美味しい顔と時間の共有をすることでつながりを作っていく。

直接の結果

地域住民と一緒に食事することで顔がつながる。

短期の成果

顔がつながり名前も覚え、気軽に声掛けられる関係になる。

長期の成果

困ったときにSOSが出せたり、助け合える関係ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

【根拠事業】 武豊町提案型協働事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

子どもから大人まで困ったことがあったときに、地域で解決ができるよう、一緒に美味しい顔と時間を共有することでSOSが出せたり助け合える関係づくりをする。

【2203年度の目標】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をしていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

昨年に引き続きフードバンク活動において町内で行う学習支援団体への食品提供をする形で代替しました。

ゆめじろうくん・コロツケカーの出動(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】楯貫浩美

【事業概要】

啓発活動の一環としてキッチンカーの出動やゆめじろうくんがイベントに参加したりしています。



新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をしていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

10回のコロツケカーの出動がありました。昨年度に続き富貴祭礼への出店や長尾祭礼(武雄神社にて)への初出店、ゆめじろうグループホームのある緑区フェスタ出店はグループホーム開所以降毎年の出店となりました。その他地元高齢者施設での祭りやたけとよスポーツフェスタ、チャレンジギネス等の出店を行いました。

ゆめたろうスマイルマラソン応援(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

平成25年度からは、「一緒に走ろう」という参加型の活動から転じ、「みんなで応援しよう」という町のイベントを地域住民と一緒に応援し盛り上げる活動を行っています。

【2023年度の目標】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をしていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

本年度については委員1名が大会運営委員会に参加し大会の開催協力をしました。応援団については人員の確保が難しく参加することはできませんでした。また、コロツケカーの出店依頼がありましたが出店条件が見合わず参加を見送りました。

フードバンクプロジェクト(自主事業)



【根拠事業】自主事業

【担当責任者】地域啓発委員会

【事業概要】

セカンドハーベスト名古屋、サポートちた、日本福祉大学、常滑市社会福祉協議会と協力し、大規模ショッピングセンターや食品会社などからまだ食べられるのに捨てられてしまう食品をもらい受け、生活困窮者など必要としている人たちに届ける活動です。

【2023年度の目標】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をしていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【事業内容・得られた成果】

本年度も食糧支援を必要とする家族や団体に対して週に1回(木曜日)ペースで食糧支援を行いました。また、年に一回のカーブスフードドライブからの食品の分配と明治製菓からのお菓子の提供を受け地域で子どもを対象とした活動を実施している団体へお菓子の提供を行いました。

今年度もフードバンクの仕組み支援としてセカンドハーベスト名古屋様へ会費のほかに余った食品の

サービ斯拉ーニング(日本福祉大学との協働事業)

【根拠事業】日本福祉大学との協働事業

【担当責任者】出口 晋(R5ひるじろう)

【事業概要】

地域福祉サポートちたを通じて実施する日本福祉大学との協働事業。「フィールド実践演習」という科目の中で実施され、NPO法人の活動を通して実習することで、学生の「市民性」を育み、自らの意思をもって関わっていく力を養っていくことを目的にしています。

【2023年度の目標】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をしていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【事業内容・得られた成果】

3名の学生の参加を受け入れました。希望する活動と自団体の受け入れ状況がうまくみ合わなかったため夏休み期間中に社会福祉協議会が実施する夏休み子ども食堂へ協力をする形で受け入れを行いました。

きのこプロジェクト(武豊町提案型協働事業自主事業)

【根拠事業】 自主事業(前:提案型協働事業)

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

自然公園一帯の活性化活動

自然公園パトロール(重度障害者による)、マップ・案内版の作成、清掃活動、自然公園を使用したイベントを行う活動です。

【2023年度の目標】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をしていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

ひるじろう生活介護のメンバーによる通年のパトロール活動を継続しました。イベントについては実施しませんでした。

龍宮まつり

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

盆踊りや運動会など地域のイベントが少なくなってきた富貴地区において地域の人が参加しつながり合えるお祭りの開催。

【2023年度の目標】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をしていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

5月に新型コロナウイルス感染症が5類へと移行しましたが、少しずつですが各地でイベントが再開されましたが龍宮祭りについては実施しませんでした。再開へ向けて中断した機関に集まっていた実行委員会の再組織化をする動きが必要ですができていません。

ゆめにてい

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】西川百合

【事業概要】

昨今地域力の低下が言われる中、ゆめじろうが地域の中で果たす役割について話し合っています。プロジェクトとして始動する前には「困った人発見隊」という名で活動してきました。ゆめじろうを知ってもらい、困った時に相談できる場所や人とのつながりがあることで、少しでも安心して生活ができるのではないかと考え、手始めとして「市」を開くことにしました。

【2023年度の目標】

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、感染リスクの高い高齢者の参加する事業については引き続き十分な予防策を取ったうえで開催を目指し、関係機関とも調整をしつつ準備をしていく。

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

今年度については実施していません。コロナ禍で人のつながりが希薄になってしまったり途切れてしまったりした状況でより一層SOSが出しにくくなっている状況が懸念されます。新たに始まった重層的支援体制整備事業会議への参加を行いました。そのなかで共有される地域課題と一緒に取り組んでいくことが大切だと実感しました。

⑩短期介護事業(ショートステイ)事業

緊急時や将来へ向けての準備を応援します！

【根拠事業】自主事業・地域生活支援拠点(体験的宿泊・緊急一時的宿泊)

【担当責任者】山本浩人

【事業概要】

本人及び家族の緊急時の宿泊支援及び将来へ向けての宿泊体験の場と機会の提供を行う。

【2023年度の目標】

体験宿泊について、レスパイト目的での利用ができない現状の中、重度の方を十分に支えるショートステイも武豊町にないため、基幹相談支援センター、ひるじろう(生活介護・就労継続B)、サンワコーポ(GH)、地域生活支援センター(居宅介護等事業)と連携し地域生活支援拠点として、計画的に実施していく。

【活動内容・得られた成果】

基幹相談支援センター、ひるじろう(生活介護・就労継続支援B型)、サンワコーポ(グループホーム)、地域生活支援センター(居宅介護等事業)が連携して地域生活支援拠点として、計画的に実施しました。2023年度の実績はすべて体験的宿泊事業で、緊急一時的宿泊事業は行っていません。

これまで継続的に利用されていた2名に加え、4名(以前から利用希望をされていた方、面談時のお話で体験的宿泊を利用希望の方)が新たに利用されました。1名の利用者さんについては、共同生活援助(グループホーム)への移行をされています。緊急時に備えて体験を積み重ねるだけでなく、ご自分のライフビジョンを検討するうえでも(グループホーム入居、一人暮らしなど)、この事業は有効であると感じています。

⑪障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

居住サポートいえじろう(共同生活援助)



「ただいま」と安心して帰る場所。ホッと出来る居場所。「明日もがんばろう」と思える場所。

活動の想い

障害のある人の親から離れて暮らす挑戦を応援したい！

対象

町内在住の障害者

活動内容

障害者のための家庭的で社会とのつながりのある住まいの提供。

直接の結果

グループホームでの生活を始めるとともに地域行事への参加、ボランティアの方との交流会に参加し始める。

短期(～3か月)の成果

グループホームでの生活に慣れ、地域の方やボランティアの方との交流にも慣れる。

中期(～1年)の成果

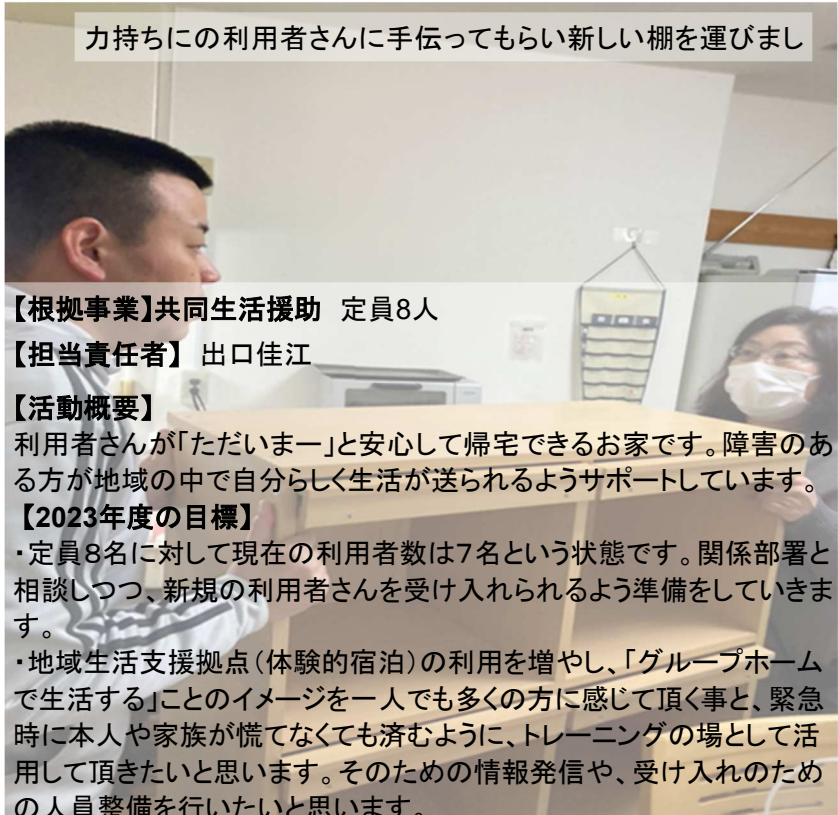
グループホームを利用する日が増え、ボランティアの方と一緒に過ごすことができる。

長期(～3年)の成果

安定した生活をグループホームで送る。地域の方に存在を知ってもらう。ボランティアの方と一緒に外出ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【根拠事業】共同生活援助 定員8人

【担当責任者】 出口佳江

【活動概要】

利用者が「ただいま」と安心して帰宅できるお家です。障害のある方が地域の中で自分らしく生活が送られるようサポートしています。

【2023年度の目標】

- ・定員8名に対して現在の利用者数は7名という状態です。関係部署と相談しつつ、新規の利用者さんを受け入れられるよう準備をしていきます。
- ・地域生活支援拠点(体験的宿泊)の利用を増やし、「グループホームで生活する」ことのイメージを一人でも多くの方に感じて頂く事と、緊急時に本人や家族が慌てなくても済むように、トレーニングの場として活用して頂きたいと思います。そのための情報発信や、受け入れのための人員整備を行いたいと思います。
- ・昨年度出来なかった、スタッフのスキルアップのための外部研修(オンラインも含め)への参加をしていきます。
- ・新しいスタッフ(登録スタッフ)が数名増える見込みです。きめ細かい教育と、チームでの支援体制構築をしていきます。

【活動内容・得られた成果】

- ・7月から新たな仲間が増えました。定員8人で収益も少し増えていきます。余暇活動で絵を描いたり塗り絵をしたり季節の作品を作り、リビングの壁に飾りました。今年はホーム内でしたが夏祭りを開催し、飾りつけを賑やかにして団扇を作り、焼き鳥やたこ焼きを楽しみました。
- ・生活の場所として手伝って頂けること(重たいものを運ぶ・お風呂掃除など)は積極的に声かけをして協力して頂きました。皆さん気持ちよく手伝って下さり、とても心強いです。
- ・体験的宿泊の利用を増やし、グループホームで生活することのイメージを感じて頂きました。
- ・人手不足が大きな課題です。特に夜勤者・夕方支援者の人材確保が急務です。今年はヘルパー部署に沢山協力して頂きました。ホームでも人材確保のため動いていきたいと思っています。
- ・研修の参加率が低く課題になっています。